



平成26年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年12月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ナイガイ

コード番号 8013 URL <http://www.naigai.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 泉 潔

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部門担当

(氏名) 市原 聡

TEL 03-5822-3810

四半期報告書提出予定日 平成25年12月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年1月期第3四半期の連結業績(平成25年2月1日～平成25年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年1月期第3四半期	12,213	△0.5	△201	—	△137	—	△151	—
25年1月期第3四半期	12,279	△3.0	47	△56.6	24	△51.9	3	△75.8

(注) 包括利益 26年1月期第3四半期 389百万円 (—%) 25年1月期第3四半期 △19百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
26年1月期第3四半期	△1.85	—
25年1月期第3四半期	0.05	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
26年1月期第3四半期	14,471	8,111	55.9	98.46
25年1月期	13,177	7,722	58.5	93.79

(参考) 自己資本 26年1月期第3四半期 8,087百万円 25年1月期 7,703百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
25年1月期	—	—	—	0.00	0.00
26年1月期	—	—	—	—	—
26年1月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年1月期の連結業績予想(平成25年2月1日～平成26年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	17,500	0.9	50	733.3	100	△22.5	70	△33.3	0.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 当第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会社方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年1月期3Q	82,172,815 株	25年1月期	82,172,815 株
26年1月期3Q	40,392 株	25年1月期	34,044 株
26年1月期3Q	82,135,024 株	25年1月期3Q	74,002,936 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想値と異なる場合があります。業績予想に関しましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

添付資料の目次

1．当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2．サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3．継続企業の前提に関する重要事象等	3
4．四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、昨年末以降、アベノミクスのプラス効果が公的部門を中心に顕在化する傾向にあり、徐々に実体経済への波及が見られる状況で推移いたしました。一方、個人消費では、昨年末からの株価上昇に伴う消費マインドの改善が一服し、資産効果による消費の勢いがやや鈍化しており、引き続き不透明な状況が続いております。

衣料品業界におきましては、百貨店主力のファッション関連商材が概ね好調に商況全体を牽引し、前年を上回る傾向が続いていたものの、10月は一転して高気温、台風等の影響を受け前年を下回る状況となりました。一方、量販店販路は、夏以降も食料品は全般に好調だったものの、衣料品は長引く残暑や天候不順の影響を強く受け前年を下回る推移が続き苦戦いたしました。

こうした中、当社グループは、第3四半期につきましても期初に掲げました諸施策に引き続き取り組んでまいりました。卸売り事業では、新規ビジネスとしてスタートした紳士肌着販売の定着及び店舗拡大、婦人靴下では新ブランド開発に注力するとともに、既存ブランドの新販路・得意先の開拓を図りました。通信販売事業では、インターネット通販事業の強化とテレビ通販事業の立て直しを行いました。その結果、第3四半期会計期間の連結売上高は前年同期に比べ増収となりましたが、利益は、第3四半期以降も円安による海外生産商品の仕入原価上昇に加え、セール催事等での処分販売強化等もあり、売上総利益率が当初計画を下回り苦戦いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は12,213百万円（前年同期比0.5%減）、営業損失は201百万円（前年同期比248百万円の減益）、経常損失は為替差益等を加え137百万円（前年同期比162百万円の減益）、四半期純損失は151百万円（前年同期比155百万円の減益）となりました。

セグメント別の業績概要は以下の通りです。

(卸売り事業)

主力のレグウェア事業では、ファッションスタイルの変化や記録的な猛暑と長引く残暑の影響で、紳士・婦人のショートソックスとクールビズ対応の機能商材及び、婦人プレーンパンストが売上を伸ばす一方で、売上シェアの高い定番のクルーソックスや婦人の柄パンストの販売が苦戦いたしました。

百貨店販路は、天候不順の影響もあり週単位の変動は大きかったものの、靴下は上記の好調商品が店頭を牽引し、紳士、婦人合計で概ね前年を上回る推移となりました。また、第2四半期まで計画未達であった紳士肌着も、第3四半期以降は、新規店舗展開がほぼ計画通りに進み、堅調な販売状況で増収に寄与いたしました。一方、利益につきましては、靴下、紳士肌着共に、持越し在庫削減のため、セール催事等での旧品在庫の処分販売を増加させたことなどから売上総利益率が低下し、販管費も紳士肌着の展開により前年を上回ったこともあり、減益となりました。

量販店販路は、大手GMSとの取組強化による相手先プライベートブランドの新規展開が増収に寄与したものの、販路全体としては天候不順等による店頭販売の不調をカバーするには至らず、売上、利益共に計画を下回る結果となりました。

専門店販路は、婦人セット組のプレーンパンスト、タイツの動きが良かったものの、主力である婦人の柄パンスト、中高生向けのブランド・キャラクター物スクールソックスの販売不振と返品増により、厳しい推移となりました。

その他卸売事業の株式会社NAP、ロンデックス、OEM、輸出、海外子会社の事業については、概ね計画通りで推移いたしました

これらの結果、当第3四半期連結累計期間での卸売り事業全体の売上高は10,010百万円（前年同期比6.8%増）、営業損失は209百万円（前年同期比391百万円の減益）となりました。

(通信販売事業)

株式会社ナイガイ・イムが展開するテレビショッピングにつきましては、第3四半期に入り、これまで好調に推移していたプロパー販売が、季節要因等で既存ブランドの消化率が低下したことに加え、新ブランドのリピート定着が遅れ、計画に届かず苦戦しましたが、セール販売につきましては、在庫の再販売価格と販売時期の適正化を図った事により、減収となりましたが販売効率を改善させることができました。また、販管費につきましても、引き続き、物流費、販売費等の圧縮に努め、損益を大きく改善することができました。

また、センチレーワン株式会社が展開するインターネット販売は、楽天市場での販売強化に注力すると共に、今シーズンより販売を開始した新ブランドの寄与もあり、引き続き増収増益基調を保っております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間での通信販売事業全体の売上高は2,438百万円(前年同期比19.1%減)、営業利益は8百万円(前年同期比141百万円の増益)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に対して1,294百万円増加し、14,471百万円となりました。流動資産では、現金及び預金が442百万円減少し、商品及び製品が1,196百万円増加しました。固定資産では、投資有価証券が時価の上昇により594百万円増加しました。

負債は、前連結会計年度末に対して905百万円増加し、6,360百万円となりました。支払手形及び買掛金が629百万円、借入金が長短合わせて177百万円、繰延税金負債が149百万円増加しました。

純資産につきましては、四半期純損失151百万円とその他有価証券評価差額金の増加476百万円等により、前連結会計年度末に対して388百万円増加し、8,111百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ2.6ポイント減少し、55.9%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年1月期の通期業績予想につきましては、第3四半期累計期間の進捗及び第4四半期の計画見通しの結果、現時点では前回予想通りの売上高17,500百万円、営業利益50百万円、経常利益100百万円、当期純利益70百万円での着地を見込んでおります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年2月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,835	3,393
受取手形及び売掛金	3,147	3,162
商品及び製品	2,764	3,960
仕掛品	10	17
原材料及び貯蔵品	74	73
その他	392	342
貸倒引当金	27	36
流動資産合計	10,197	10,913
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	50	44
土地	66	72
その他(純額)	128	123
有形固定資産合計	245	239
無形固定資産		
投資その他の資産	357	336
投資有価証券	2,169	2,763
その他	249	250
貸倒引当金	42	32
投資その他の資産合計	2,376	2,982
固定資産合計	2,979	3,558
資産合計	13,177	14,471

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年10月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,785	2,414
短期借入金	1,292	1,400
未払法人税等	33	50
賞与引当金	31	63
返品調整引当金	331	239
その他	567	510
流動負債合計	4,041	4,678
固定負債		
長期借入金	250	320
退職給付引当金	983	1,032
繰延税金負債	145	295
その他	34	34
固定負債合計	1,413	1,682
負債合計	5,454	6,360
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,691	7,691
資本剰余金	6,782	6,782
利益剰余金	6,980	7,132
自己株式	6	6
株主資本合計	7,487	7,335
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	223	699
為替換算調整勘定	7	52
その他の包括利益累計額合計	216	752
少数株主持分	18	24
純資産合計	7,722	8,111
負債純資産合計	13,177	14,471

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)
売上高	12,279	12,213
売上原価	7,909	8,026
売上総利益	4,370	4,186
販売費及び一般管理費	4,322	4,387
営業利益又は営業損失()	47	201
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	20	22
為替差益	8	87
その他	17	19
営業外収益合計	48	130
営業外費用		
支払利息	33	22
持分法による投資損失	26	38
その他	11	6
営業外費用合計	71	67
経常利益又は経常損失()	24	137
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	24	137
法人税、住民税及び事業税	20	22
法人税等調整額	0	10
法人税等合計	19	11
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	5	149
少数株主利益	1	2
四半期純利益又は四半期純損失()	3	151

(四半期連結包括利益計算書)
(第 3 四半期連結累計期間)

(単位 : 百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成24年10月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成25年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 ()	5	149
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	418
為替換算調整勘定	14	62
持分法適用会社に対する持分相当額	8	57
その他の包括利益合計	25	538
四半期包括利益	19	389
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21	383
少数株主に係る四半期包括利益	1	5

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

前第3四半期連結累計期間(自平成24年2月1日至平成24年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	9,268	3,011	12,279	-	12,279
セグメント間の内部売上高又は 振替高	106	1	108	108	-
計	9,374	3,012	12,387	108	12,279
セグメント利益又は損失()	182	132	49	1	47

(注)1. 調整額はセグメント間の取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年2月1日至平成25年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	9,774	2,438	12,213	-	12,213
セグメント間の内部売上高又は 振替高	235	-	235	235	-
計	10,010	2,438	12,448	235	12,213
セグメント利益又は損失()	209	8	200	0	201

(注)1. 調整額はセグメント間の取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。